

委員会行政視察報告書（令和8年4月28日）

日 時：令和8年4月28日（火）
視 察 先：神奈川県大和市
視察事項：「所管事務調査：魅力ある図書館の在り方について」-大和市の図書館事業について
<p>内 容</p> <p>図書館を中心として芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場の4機能を中心とした「文化創造拠点シリウス」を訪問。市には中央図書館機能を果たすシリウスの図書館を含め3館、他に学習センター2施設に図書室が市内には設置されている。</p> <p>「シリウス」の施設運営は、企業6社による運営主体「やまとみらい」が指定管理者である。建物の1階から6階まで全てが「図書館」として機能し、1階の文化ホールや商業スペースなどどこでも読書が可能であり、貸出返却は利用者によって行われている。</p> <p>再開発事業の一環として様々な計画案が検討された末、現在の様相で平成28年11月3日に開館。年々利用者が増加し年間300万人を超えるようになっている。国内外からの視察も多い。</p> <p>図書館事業は、「健康づくり」を特色として展開され、中心である4階フロアでは、毎日健康に関するイベントを開催。健康状態を計測できるコーナーも設置され、健康関連の蔵書を1か所にまとめ閲覧提供されている。3階フロアは「大和こどもの国」として、こども図書館と幼児や児童が体を動かせる遊び場が併設。5階フロアは、落ち着いた雰囲気を読書や学習に集中できる従来の「図書館らしい環境」となっている。1階・2階の書架は、併設する他施設利用者の便に供するよう、政治・法律・経済・教育等の書籍が配架。館内座席数は1,000席だが、土日祝日や試験期間・受験シーズンは利用者が多く、増席が大きな課題とのことであった。</p>
<p>視察を終えて</p> <p>図書館の特色として「健康」に力点を置き、市民のコミュニティーの結節点として重要な役割を担った場所を創出することで、複合施設全体の集客や施設そのものの価値向上に貢献している印象であった。従来の「図書館は静かに読書するところ」というイメージから、動的なイメージ展開で自治体図書館としての新たな魅力が生まれたとのことであった。役割を明確にしたフロア構成や食事や会話のできるスペース確保などで、それまで図書館を利用しづらかった子育て家族が気兼ねなく来館できるなどの効果が生まれている。「健康分野」に特化し毎日行われるイベントも好評で、参加者が後にサークルを立ち上げるなど、新たなコミュニティーの創造につながっている。多世代、多階層の市民の「居場所」として大きな価値を生み出す図書館であり複合施設であると実感した。施設稼働率も9割を超え、「文化創造拠点」として成功している好事例であり、有意義な視察となった。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。